どうなる、どうする高校入試！

少子化により高校はなくなるのにどうして高校入試はなくならないの？疑問に感じたことはありませんか？希望者全入をうたって始まった戦後の新制高校。教室・校舎が足りなかったことでやむなく導入した選抜試験が、意図的に継続される一方で常に競争倍率が生じるように定員調整が行われた結果、いつの間にか高校入試はあってあたり前と受け取られるようになりました。国連子どもの権利委員会は日本政府への報告書で、「社会の競争的な性格により子ども時代と発達が害されることなく、子どもがその子ども時代を享受することを確保するための措置をとること」「あまりにも競争主義的な制度を含むストレスフルな学校環境から子どもを解放することを目的とする措置を強化すること」を提言しています。諸外国から見て異常に映る日本の競争教育。「あまりにも競争主義的な制度」とは何か。高校入試制度はその一つであることは間違いありません。

唐突な提案！拙速な議論！新学習指導要領対応が唯一の根拠？

6月21日道教委高校教育課は「道立高等学校入学者選抜における改善の基本方針」を発表しました。3月に突然示めされた「改善の方向性」では、改善の理由の筆頭に「新学習指導要領の趣旨を踏まえ」ることを唯一の根拠としています。定時制の学力検査廃止や学力検査の配点の及び検査時間等に検討を加えると示されていたことから、学力検査1科目45分間・60点満点・1日日程での実施が始まった1982年度入学者選抜の枠組みを40年ぶりに見直すものとなりました。

道高教組は、拙速な導入は行わないこと、地域住民、保護者、学校関係者、教職員団体と十分協議を重ねること、インフルエンザ罹患者への対応は全体と切り離して早急に改善することを柱とした要求書を道教委へ提出。高教組定通部がいち早く定時制への学力検査導入に反対する世論づくりに奔走しました。道教委は全道19会場で「説明会」なるものを開催したと公表していますが、パブリックコメントなど幅広く広く道民の意見を聴取する機会は一切持たれませんでした。

発表された「改善の基本方針」には、「一般入学者選抜における学力検査」で、「思考力、判断力、表現力等についてもバランスよく出題する」として、100点満点、解答時間50分にすることや、定時制への学力検査導入を見送り、学校裁量で「自己推薦による推薦入学」を実施できること等が示されました。マスコミ的にはあまり大きく取沙汰されていませんが、そこにはさまざまな問題点が潜んでいるのではないでしょうか。

受験生・親の負担増加！競争圧力の高まり必至！塾依存度はさらに上昇！多くの問題点あり！

●学力試験を1日日程で行い得るギリギリの検査時間延長により、学力検査が超過密スケジュールとなり、受検生の肉体的・精神的プレッシャーはこれまで以上となります。ちょっとしたアクシデントに対処する時間的余裕がほとんどありません。何かあった時、大丈夫なのでしょうか。

●格差を広げ選抜し易くするための100点満点導入は、解答数や記述量の増加などをもたらし、受検生への負担を確実に増加させます。また、「輪切り」などと呼ばれ表されている高校間格差をいっそう明瞭化するのではないでしょうか。

●新学習指導要領の趣旨を踏まえて裁量問題的な出題を全科目で全受検生に課すことは、学習指導要領体制を教育現場に貫徹させることにとどまらず、受検生に入試問題の難化を印象づけ、高校入試そのものの負担感と競争圧力を増大させることになります。

●競争圧力が増大すると、志望校突破に対する競争心が増幅され、学習塾等への依存度合いが高まり、家計の経済力の格差が合否を左右する度合いがさらに強まることは避けられません。格差社会にますます拍車をかける事につながっていくのではないでしょうか。国連子どもの権利委員会の勧告とは真逆の方向へ進むことはまちがいありません。

●大学入試改革でも「思考力、判断力、表現力等」を問う出題の導入については数年かけて議論してもなお設問の妥当性や採点の公平性に対する不安が残っているのに、ほんの短期間の議論や準備で、出題ミスの多い道教委が「バランスよく出題する」ことができるのかという点には、教職員の多くが心配しています。

たくさんの心配が残る道教委の高校入試改革。拙速に導入せずに、道民的議論をじっくりと行うことが大切なのではないでしょうか。

みなさんのご意見をぜひ、お寄せください。

子どもたちの話で盛り上がる！恒例！春のブロック会議交流会！

札幌支部恒例のブロック会議・交流会。Cブロックは6月29日（土）に札幌駅前のもつ鍋・餃子の専門店で行いました。参加者は札南分会から22名、月寒分会から1名、伏見支援分会から2名、真駒内養護分会から1名と障害児学校部の全道常任委員会のため来札していた元札幌支部の組合員1名、そして担当支部役員の計8名でした。

支部活動の経過や情勢報告、当面とりくみの提起、確認及び共済学習会のあと、おいしいお酒とお料理に舌鼓を打ちながら、分会交流を行いました。

特別支援学校からは報告は、やはり校舎の老朽化と狭隘化の問題でした。既存の施設を再利用した「新設校」とは名ばかりのとある学校では、吊りさげ遊具の設置に問題があり、天井から固定金具ごと遊具が落下したそうです。幸い天井の石膏ボードが引っかかり床への直撃は免れ児童生徒に怪我はなかったそうですが、一つ間違えば大事故につながる、決してあってはならない事故だったそうです。工事の目途が立たず吊り下げ道具総点検のため遊具の全面使用禁止となり、狭い校舎の中で児童生徒のストレスが溜まっているとのことです。開校して3年目で起きた事故です。狭隘化を安上がりに解決してはいけません。

分会交流の目玉はやはり生徒にまつわる話です。野球部地区大会でのサヨナラ勝ちのあとのサヨナラ負けのドラマ、そこに至るまでの生徒とのやりとりが印象的でした。また、3年生のあるクラスの考査終了後、「○○先生に習ったおかげでこんなにできた！○○先生は凄い！」と生徒から自然に拍手が起こったのを試験監督の若い先生が感動して当該先生に伝えたという話。これは30年来の経験を総動員して誠実に授業を組み立てできたことに対する生徒からのちょっとしたご褒美でした。次に、車いすダンスの発表会に向け、プロの車いすダンサーを講師に招いて準備をした話。本物に触れた生徒達は本番で圧巻のパフォーマンスをしたそうです。生徒の持つ無限の可能性に触れたという感動のお話でした。

益々息苦しくなりつつある教育現場ではありますが、教師が息苦しくなれば、児童生徒にとってはもっともっと苦しく生きづらい世界となってしまうと言えるでしょう。それに少しでも抗うために組合に結集しているのが私たちですが、そのエネルギーは、勤勉手当の加算率ではなく、共に働く仲間や児童生徒の生き様からしか得ることができません。それを再確認することができた今回のブロック会議でした。学校に同僚と児童生徒がいる限り、私たちのエネルギーは枯渇することはありません。次のブロック会議は11月です！

2019主な札幌平和行動予定表

◎8月の6・9行動　JR 札幌駅南口　8月6日(火)9日(金)12：15～12：45

◎平和パネル展　地下街オーロラコーナー　8月6日（火）～9日（金）

◎松平晃平和コンサート 大通西3丁目広場　8月12日（月）13：00～

◎反戦平和街頭宣伝（赤紙配布）マルヨ池内前　8月15日（木）11：00～11：30

◎市電走れ平和号　市電すすきの停車場出発　8月15日（木）12：30

どなたでも参加できます。是非時間を割いて参加ください。

写真は各ブロック会議で行われた全教共済自動車保険学習会の様子です。